

# 翻字翻訳『清書指南・翻清虚字講約』

(合冊版)

竹越 孝

<初出一覧>

- 翻字翻訳『清書指南・翻清虚字講約』(1)『KOTONOHA』第21号(2004.8.16)  
翻字翻訳『清書指南・翻清虚字講約』(2)『KOTONOHA』第22号(2004.9.28)  
翻字翻訳『清書指南・翻清虚字講約』(3)『KOTONOHA』第23号(2004.10.28)  
翻字翻訳『清書指南・翻清虚字講約』(4)『KOTONOHA』第24号(2004.11.28)  
翻字翻訳『清書指南・翻清虚字講約』(5)『KOTONOHA』第25号(2004.12.28)

発行：古代文字資料館（愛知県立大学E511 研究室内）

[museum@for.aichi-pu.ac.jp](mailto:museum@for.aichi-pu.ac.jp)

<http://www.aichi-pu.ac.jp/for/museum/>

2005年1月

## 翻字翻訳『清書指南・翻清虚字講約』(1)

竹越 孝

<凡例>

- ・ 本稿は、清・沈啓亮輯『清書指南』Manju bithei jy nan 三卷（清康熙二十一年 [1682] 序）の卷三「翻清虚字講約」を対象として、その全文を翻字するとともに、満洲語の部分日本語に翻訳した資料である。本書の概略と現存の諸版本、及び編者沈啓亮については、今西（1956）、池上（1962）、早田・寺村（2004）等を参照されたい。
- ・ 『清書指南』の底本には、天理図書館蔵本のマイクロフィルム（雄松堂フィルム出版『天理図書館所蔵満語文献集・語学編』リール No. 32）を用いた。天理図書館蔵本は、同編者による『大清全書』Daicing gurun i yooni bithe 十四卷（清康熙二十二年 [1683] 京都西河沿宛羽齋李伯龍書坊刊本）の付録として収められている。
- ・ 『清書指南』巻頭の満漢文による目録は以下の通り（なお原文の「清書」に〔指南説〕を補うことについては池上 1962 を参照）：

manju bithei jy nan..	清書指南
fiyelen i ton..	目録
uju de. juwan juwe uju..	卷首 十二字頭
dehi uju i jurgan be suhe..	註義徳喜烏朱
jai de. manju i hacin hacin i gisun..	卷二 満洲雑話
ilaci de. bithe ubaliyambure. be. de i	卷三 翻清虚字講約
hergen be giyangnara oyonggo..	清書〔指南説〕

- ・ 『清書指南』は漢人及び満洲人が満洲文語を学ぶための教科書であり、満洲語の音節表「十二字頭」、四十条の満洲語短文「徳喜烏朱 dehi uju」、満洲語の会話文「満洲雑話」、満洲語文法の概説「翻清虚字講約」により構成されている。本書成立の経緯と各篇の内容については、巻末の「自叙」及び「清書指南説」に詳しいので、本稿では冒頭にそれらの翻字を掲げた。
- ・ 「翻清虚字講約」全 14 葉は、67 項目の「虚字」即ち満洲語の機能語について、意味・用法と翻訳のルールを述べたものである。本稿では便宜上各項目に通し番号を付した。満洲語の翻字は Möllendorff 式により、満洲語の語彙と例文に（ ）を付して日本語訳を記す。なお、マイクロフィルムの不鮮明箇所や誤刻と思われる箇所には < > を付して補うこととし、その際には「翻清虚字講約」とほぼ同一の内容を持つ『清文備考』（清康熙 61 年 [1722] 序）の卷一「虚字講約」（『天理図書館所蔵満語文献集・語学編』リール No. 30）を参照した。

<参考文献>

- 池上二良 1962 「ヨーロッパにある満洲語文献について」、『東洋學報』第45卷3号, 105-121。  
今西春秋 1956 「清書指南のことなど」、『ビブリア』第7号, 8-11。  
早田輝洋・寺村政男 2004 『大清全書一増補改訂・附満洲語漢語索引一』本文篇・満洲語索引篇・漢語索引篇, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所。

自叙

啓亮籍江左婁東。世嫻文藝。自先大父岱萊公。諱雲祚。以前庚辰進士。初知四川華陽縣令。甲申。署理監軍道。遭獻逆寇蜀。督兵守城。城陷逼降。罵賊身磔。合門殉難。先子祉繫公。諱荀茅。以博士弟子員。義不顧家。捐資募勇。志圖報讐。欣逢興朝定鼎。賊既在天討。遂率衆義。謁行征南大將軍正藍旗貝勒王於幕府。授先鋒副將。開疆閩粵。越數年因曾祖母病告歸。己亥。京口遭變。隨大中丞蔣公行陣。鼓勇登先。身冒矢石而亡。時亮瑩瑩孤弱。雖志欲勤事詩書。奈力不從心。遂閱三略六韜。持弓挾矢。効力行間。至甲寅歲。閩孽搆難。隨總制郎公。統一旅以赴王事。備員戎伍。衝鋒陷陣。南征二載。因奉裁缺。以母病歸。母病痊。得以遊學京師。且生平好筆墨。於清書向往尤篤。丁巳春。適館於廂黃旗。通問於滿洲諸先生。始讀十二字頭。以識單字。繼續德喜烏朱。以識連字。既識連字。則諸書從可窺矣。雖然猶未也。翻譯旁通諸奧。尚隔數十層。亮嘗誤聽人言。清書易學。可下兩三月而成。斯時信以爲眞。及期。雖諸書果能識矣。至問對茫然。且下筆時更無從落筆。唯求講一句。止知一句之義。所謂觸類旁通者何在乎。夫漢書中有之乎者也等虛字。連貫得法。斯爲章句通儒。然漢文於吟咏之間。抑揚高下。尋繹其理。或可自悟一二。若清書中亦有如之乎者也等虛字。不得其傳。則翻清之法。雖有深心者。不能自悟也。況清書中有一定不移之體。失其體。纖毫之間。如隔千里。則此書關係於學者不綦重哉。書雖向有纂集。授受甚難。不能公之同人。亮甚惜焉。用是苦心搜索。成書三卷。首卷註義德喜烏朱。二卷滿洲雜話。三卷翻清虛字講約。統之爲清書指南謹付之梓。學者一從事焉。去極難之遠途。就至易之近徑。期月三年。未必於是集無補也。至於亮父子戮力疆圉。卒無成效。庶幾闡發盛朝文教。以贖前愆。若夫謂學劍不成。棄而學書。又亮所萬萬不敢云爾。

旨康熙二十一年蒲月吉旦

婁東沈啓亮弘照氏識

(1a-2b)

## 清書指南說

一 凡學清書者。每以讀完十二字頭。乃隨意所學諸書誠非易徑。今纂集此書。博歸於約。以爲學者之階梯。次序而進。成功不難。倘誤聽而忽之。茫茫岐路。是非一朝一夕可能解義也。

一 寫清書之體。左順於右。漢書之則。右順於左。今滿漢書合寫。左來右去。或不便看。書法一概左順於右。

一 德喜烏朱。乃四十段滿洲文也。其詞直勁而不繁。短切而不促。所用虛字眼之法。步步在理。井井有條。承上接下。一氣呼成。間不容髮。學者勿以其文簡詞短而輕視之。凡人有云。德喜烏朱。猶如小學生讀千家詩一般。余謂德喜烏朱。是一部經義。但人誤聽輕之耳。果以此之精研如一。何愁不得翻譯之妙。即如人云千家詩一般。請問千家詩小學生讀之。善講乎。善賦乎。而人之吟詩作句。又可以去其千家詩之體式。而更有善法乎。

一 德喜烏朱上。傍書漢字。乃釋明漢義并書明用虛字眼之法。假借諧聲。和律。俱在是矣。務要口內純熟。改頭換尾。即是滿洲話。

一 滿洲雜話。雖未及萬分之一。然於學者實有裨益。有人言曰。此係粗話。姑且置之也。余口之曰。粗話。眞粗話也。若漢人不能說粗話。使饑者不得說要飯吃。渴者不得說要湯飲。不名之爲啞吧乎。故凡學清書者。務必隨帶學話。使滿話繩熟。實爲翻書之最。如滿話不熟。翻書雖善。終爲澁滯。

一 善漢書人學滿書者。先將十二字頭。一一認明。熟寫熟讀。次讀連字。行止坐臥。如對滿書在前。如對滿人說話。猶如騷人吟哦風月。墨士淋漓筆硯。竟把漢書卷開。專心致志。裝爲一箇不識漢字之人。然後可。

一 善滿書人。尚未精漢書者。翻書時。必向漢人將漢書講明。方能動筆。然未善也。凡漢文中起承轉合。照應呼吸。全在虛字上一兩個字。提明發現。但漢人止能講漢文。其中神情氣概。只可意會不能言傳者。實難代爲翻書人體貼出來。一滿一漢。心口不能相印。雖曰盡美矣。終屬皮裏膜外。總不如滿漢皆明。心口相印之爲善也。諸君子既精滿書者。當潛心漢文。學究今古。猶如漢人學滿書而忘漢書者是已矣。

一 遇翻書之時。心中不必欲急就。猶如做文章一般。題目到手。先將綱領握定。然後落筆。其中過文接脉之處。纖毫不可游移。或於句語中翻意有所不同。此亦似乎不妨。然亦不可太執已見。以謬漢文。至於 *yooni bithe* 一書。如漢書中之字彙也。萬不可少。自來用者。俱係抄寫。奈抄寫甚繁。不能遍及。今亦付梓。以備諸君子所易覽焉。

(1a-2b)

## [1] be.

虚字解。即漢文將字。把字。實字解。我等。雀食。餌軌。如云。把此物如何。即云。ere jaka be. (この物を) 將此人如何。即云。ere niyalma be. (この人を) 如接虚語用。凡已然者。即用 ka. ha. ke. he. ko. ho. 字。方可接 be 字。未然者。即用 ra. re. ro. ru. 字。方可接 be 字。其 i. ni. fi. de. ci. 等類字。俱不可接 be 字。若係整語。如 bayan wesihun (富貴) 之類。即可直用 be 字。亦有連寫者。必用 m 字帶下。如 gisumbe. (話を) cembe (彼らを) 之類。亦有因上一字。係 an. en. in 頭者。如 imbe. (彼を) mimbe. (私を) simbe. (お前を) membe (我々を) 之類。方可用也。又有整語。如勤曰 kicebe. (勤勉な) 精細人曰 serebe. (細かい人) 總之曰 eicibe. (ぜひとも) 那箇曰 yabe. (何を) 好了曰 yebe. (よい) 不在此例。凡 dahame (なので) 之上。必用 be 字。如云。你們既到我家裡來了。suwe meni boode emgeri jihe be dahame.. (お前たちは私の家にもう来たので) 凡書法。不可以 be 字。提寫一行之首。至於 de. ci. se. i. ni. kai. 等字亦然。凡此等字。用於連字之頭者。名曰整字。或有用於中。或有用於尾。及單用者。方爲虚字解耳。

## [2] de.

直就某事某物上說也。作於字意。作處字意。作時候字意。作地方字意。作在字意。作而字意。如云。不如行善而致安。sain be yabume elhe ojoro de isirakû.. (善を行って安らかになるに如くはない) 此而字之意也。如云。此處。ubade. (ここに) 如云。於此人。ere niyalma de. (この人に) 如云。去時。generede. (行くとき) 如書曰。吾之於人也。bi niyalma de. (私は人に) 如云。在此而不在彼。ede bi. tede akû.. (ここにある、あそこにはない) 其已然未然之詞。照上文分別用。如整語。亦可直接。又有用 o 字之類接下者。不可執一也。凡用於句中。有着意之意。與 do 字 te 字用於句中同也。如議曰 hebe. (相談) 商議曰 hebedembi. (相談する) 寬曰 onco. (広い) 寬之曰 oncodome. (広めて) 拍馬曰 dabsimbi. <dabkimbi> (馬に鞭打つ) 拍馬向前曰 dabsiteme. <dabkiteme> (馬に鞭打って行き) 凡遇 gelembi. (恐れる) olhombi. (怖がる) aisilambi. (助ける) šangnambi. (褒める) amuran.. (好きな) 此五字之上。必用 de 字。乃一定之詞也。如問曰。si boode bici we de gelembi. (お前は家にいれば誰を恐れる) 答曰。ama de gelembi. (父を恐れる)

(1a1-2a4)

## 翻字翻訳『清書指南・翻清虚字講約』(2)

竹越 孝

(承前)

[3] i. ni.

即漢文以字。之字。又作煞尾助詞用。又作有驚訝想像意。如云。如之何了。  
absi ohoni. (どうなったのか) 如云。此何故也。ai turgun ni. (何の理由か) 凡遇  
emgi. (ともに) baru. (向かって) canggi. (だけ) cala. (あちらに) teile. (ばかり)  
jalin. (ために) adali. (ような) gese. (ような) 此八字之上。必用 i 字。此  
一定之詞也。倘係聯語。如這樣曰。ere gese. (このような) 不在例内。如 han sin.  
bang iowen be kiyahûn <giyahûn> indahûn i adali obufi. (han sin, bang iowen を鷹や  
犬のようにして) 此用 i 字之法也。又 dule (もともと) 之下。ainahai (どのよう  
に) 之下。必用 ni 字。或 nikai 煞脚。

[4] ra. re. ro.

此三字。用於字末。皆承上接下。將然未然之語。下用 be 字。則上用此三字。  
或一連數句。文法相似。而意思各斷者。乃用此三樣亦是指事之詞。如 banjire  
fulhurere be kimcime hosutuleme <hûsutuleme> faššambi. (生むこと育てることを詳  
らかにし力を尽くし努める) 此下用 be 字。接未然字樣之法也。如 jetere jaka be.  
(食べるものを) 此 re 字乃未然字樣。又遇整語。所謂直接 be 字之法也。如上用  
a. 則下用 ra. 上用 e. 則下用 re. 上用 o. 則下用 ho. <ro> 捻之以叶韻爲主。如於字  
中用者。乃用工用力之詞。即 manjurara. (滿洲語で話す) gisurere (話す) 之類是  
也。又與 la. le. 等字相同。如 lashalahabi. (決断したのだ) hosutuleme. <hûsutuleme>  
(力を尽くして) 是也。如用於字末。作結句者。比 mbi 字稍活動些。如我必去。  
曰。bi urunakû genembi. (私は必ず行く) 如我去。曰。bi genere. (私は行く)

[5] la. le. lo.

此三字用於句中。皆有用力之意。如自壞曰。efujehe. (壊れた) 壊之曰。efulehe.  
(壊した) 以叶韻分用耳。如用於句末。作大凡字解。凡所聞。曰。donjihala.  
<donjihale> (聞いたことすべて) 凡所到。曰。isinahala.. <isinahale> (いたるところ  
すべて)

[6] ka. ha. ke. he. ko. ho.

此六字。皆已然之詞。漢文矣字。也字。又視上文叶韻用之。如上 a 下 ha. 上 e  
下 he. 上 o 下 ho. 其 ka. ke .ko. 又隨語氣以別耳。如去曰。gene. (行け) 去了。  
曰。genehe. (行った) 如 boode dosimbufi antaha boihoji doroi tecehe manggi.. (家

に入れて客主の礼で対座したところ) 此 **he** 字之用也。完曰。 **waji**. (終われ) 完矣曰。 **wajiha**. (終わった) 至於 **habi. hebi. ohobi**. 此用 **bi** 字煞脚者。乃一事之已完也。用 **manggi** (すると) 字煞脚者。乃一事之未完。文理斷耳。其 **kabi. kebi**. 又随語氣以變耳。

[7] **me**.

乃承上接下。連一事而急轉之詞。如云。不能舉。 **tukiyeme muterakû**. (持ち上げられない) 又如漢文平叙口吻。如着字之虛字眼。乃一句中之過文接脉字眼也。如云。説着看。 **gisureme tuwa**. (話して見ろ) 凡句法相似者。数句連用不妨。但不可煞尾用。亦有作煞尾用者。乃係整語。如 **senggime**. (友愛) **enteheme**. (永遠に) 不在此例。又漢文而字。則用 **bime**. (あつて) 意思相連而下也。如富而貴。 **bayan bime wesihun..** (富んでいて貴い)

[8] **fi**.

與 **me** 字。語氣相似而實不同。 **me** 者一事而意相連。 **fi** 者一事説完。語氣未斷。下復更端。如云。説了看。 **gisurefi tuwa**. (話して見ろ) 又云。看了書再説。 **bithe be tuwafi jai gisurembi**. (本を読んでまた話す) 其 **me** 字用法。如云。説着看。 **gisureme tuwa**. (話して見ろ) 語氣相似。則連用数 **fi** 字。亦不妨。但不可煞尾用。亦有煞尾用者。如云。因此故也。則曰。 **uttu ofi** (そうなつて) 之類。又推原其故之詞亦用 **fi** 字。如因其如此。所以如此。則上亦用 **fi** 字。以起下文。

[9] **pi**.

此字。與 **fi** 字意同而變化耳。蓋因上一字。係 **an. en. in** 頭者。而 **fi** 字之上不可加 **mbi** 故必用此字。如 **wempi**. (變わつて) 正以 **wen** 字之上。不可爲 **wenfi**. 而 **wen** 字又非整語。故以此代之。然亦不盡然者。如 **jalufi**. (満ちて) **jalumpi**. (満ちて) 亦互用耳。揔之不多見者。書經云。黎民於變時雍。 **irgen wempi hûwaliyasun oho**. (民は變わつて平和になつた)

[10] **bi**.

凡語中用。皆直指其現在而言。已然而言也。下不可接 **be** 字。 **de** 字。如云。已來了。 **jihebi**. (来ている) 凡句尾用 **bime** 者。乃已是如此。而又復言。蓋以 **me** 字轉下。尚有別語故耳。又有接上文用 **mbime** 者。即如 **saišambime** (賞賛して) 之類。蓋因上文係未然而又不必斷開。故用之 **me** 字意同。直視上文口氣耳。凡在句首。作我字解。如云。 **bi gûnici**. (私が思うに) 在句末。作有字解。如云。 **tubade bi**. (そこにある)。凡句中連寫者。如 **bifi** (あつて) 者。因有也。 **bici** (あれば) 者。有則也。 **bisire** (ある) 者。凡有也。凡在也。 **bisirengge** (あるもの) 者。凡

有者。凡有的也。如云。我既然在此。bi ubade bisire be tetendere.. (私がここにいるからには)

[11] bifi. bici. bisire.

此三字。當虛字解用者亦承上文之詞也。而視上文若何。當用 fi. 用 ci. 用 re. 此三字之轉文。與別處字頭上。用 fi. ci. re. 相同也。其 re 字上。又以 si 字襯貼。好便口頭耳。

[12] bihe.

凡追述已然者必用。又當初原如此。而今不如此。亦用 bihe 字轉下。又作曾字解。如云。曾爲官來。hafan oho bihe. (役人をしていた) 曾好來。neneme sain bihe. (前は良かった)

[13] bihe bici.

連用之法。是漢文事後而設言已前之事。下必再用 bihe 字應之。如云。若不如是。何以如此。tuttu akû bihe bici. adarame uttu ombihe.. (そうでなかったならば、どうしてこうなっているのか)

[14] bihebi.

追述往事而煞尾之詞。如 li tai be aikabade šu tacikû de akdahakû bici. ere gese wesihun be aide bahambihebi.. (li tai をもしも書塾に預けなかったならば、このような高い身分をどうして得られたらろうか)

(2a5-5a3)



(承前)

[15] ombi.

此煞尾之詞。亦將來未然之用。與 ra 等字相近而不同。ra 等字。於承上接下處者多。此於語中竟結也。又常體玩此字。蓋即 me 字。下加 bi 字。是 ome bi 也。此乃語急而省筆法耳。凡有上文係整語。而遇一句之文理已完。又不可加 mbi 者。即以 ombi 接之也。如書曰。še ji elhe taifin ombi.. (社稷は太平になる) 凡有兩解。一作可字解。一作為字解。如作可字解。上必用 ci 字。如作為字解。上必用 de 字。如可行。曰。yabuci ombi. (行くことができる) 如云。此人可以為我之兄。minde ahûn ombi. (私に兄となる) 這裡可為。曰。ubade ombi. (ここです) 問人曰這人為你的什麼人。sinde ai ombi. (お前に何となる)

[16] mbi.

是漢文未然之詞。結煞語。如上文係整語。則用 ombi 字接之。如忠曰。tondo ombi. (忠実にする) 此乃整語。不可竟連 mbi. 故添一 o 字也。如孝曰。hiyoošulambi. (孝行する) 因此字。非整語。故以 mbi 連寫之也。

[17] o.

此字之用最廣也。專以承上文。又因其語而變化耳。如承上文之所云。而作已然之用也。如分叙之事。作兩段並下。或連叙數事。而意各斷者。俱以此字承接。又上文係整語。尤必以此承接。方可轉下。如云。做了官的人。即曰。hafan oho niyalma. (役人になった人) 之類。至於起下文。則又視其一句之語氣。如當用 ra. re. 等字。乃用 ogoro 者此因上文係整語。不可加 ra. re. 等字。故用 ogoro 耳。如上文當用 me 字。則用 oome. 今多用 ome. 其義亦同。當用 fi 字。則用 ofi. 當用 ci 字。則用 oci. 已然則用 oho. 將然未然。則用 ombi. 亦必上文係整語。不可加助語詞。如 ci. fi. me. ha. he. 之類。方可用此字耳。又有單用。如應曰可。ombi. (できる) 不可。ojorakû. (できない) 亦是指其上文之所云者而言也。

[18] ume.

禁止之詞。下必以 ra. re. ro. 接之住脚。如云。毋貪酒色。nure boco de ume dosire.. (酒色に没頭するな) 又有文勢長者。如云。毋以惡小而為之。ume ehe be ajigen seme yabure.. (悪を小さいと行って行うな) 又急口文勢。如云。你不要那樣。si tuttu ume. (お前はそうにするな)

[19] ci.

漢文由字。自字。從字。比字。則字。又時節口氣。又如字意。語勢頗急。口氣畧斷。結上起下之詞。如云。如此則如此。乃曰。tuttu oci uttu ombi.. (そのようになればこのようになる) 惟結語不用。然又有用者。如上文 esi. (もちろん) 下文必用 ci 字接之。如云。bi baita umesi largin labdu ofi. umai šolo baharakû. šolo bahaci esi jici.. (私は仕事がとても煩雑で多く、全く閑が得られない、閑を得ればもちろん来るとも) 此 ci 字。煞尾之用法也。如云。由此。又曰却説。tereci (そこで) 也。又云。如彼善於此。ereci tere sain. (これからそれが良ければ) 又云。從此至彼。uba ci tubade isitala. (ここからそこに至るまで) 又云。比他強。sinci fulu. (彼より優れている) 如云。久則不可。goidabuci ojarahû. (遅らせてはいけない) 如云。這時節使不得。uttu oci ojarahû. (このようにしてはいけない) 如云。如此可乎。uttu oci ombio. (このようにすればよいか) 凡遇 ombi. (できる) acambi. (あう) tulgiyen. (ほかに) ojarahû. (できない) 此四字之上。必用 ci 字。是一定之詞也。

[20] se.

漢文以爲之意。又年歲之歲。馬齒之齒。又等也。又你去説之説字。又是因其如此説了。而後云然之意。又述人之語完了。下用 se 字結之。又或引事之意如 sere. (言う) seme. (言つて) seci. (言えば) sehe. (言つた) sembi. (言う) 皆視上文分別已然未然用。又如 hendu. (言う) 通用。如 henduhe. (言つた) 即可用 sehe. (言つた) 其於 sefi (言つて) 一字。乃翻書中。過文接脉處用者也。但不宜於口中説耳。其意專在於説罷行事之間。故 sefi 之下。多有 uthai (すぐに) 字接之者。即無 uthai 字樣。其文意近之。至於 sehebi (言つてある) 之用法者。上文起語。必用 henduhenge. (言つたこと) 如追述最前之事者。則以 sehebihe (言つたのだった) 字結之。如叫人這樣説。si uttu se. (お前はこのように言え) 如云。我聽如此説。bi donjici uttu sere. (私が聞けばこのように言う) 凡 donjici (聞けば) 之下。必用 sembi. sere. sehe. 等字接之。其 seme 之上。有 udu (たとえ) 字。即以雖然字也。如上文有 ki 字。即以欲字要字用也。

[21] ki.

者。凡意欲如此而未行。則必用 ki 字。如欲去。geneki. (行きたい) 欲取。gaiki. (取りたい) 如上係整語。則以 o 字承接。如欲做官。hafan oki. (役人になりたい) 如上非整語。即以 ki 字連寫下。以 se 字接之可也。如欲念書。則曰。bithe be hûlaki sembi. (本を読みたいと言う) 又作請字解。如云請坐。teki. (座ってくれ)

[22] kini.

聽其自然而然之意也。句末用之。與 bu 字稍異。bu 者。有意使之如此。kini 者。任彼如此也。如等他自來。則 jikini. (来るがいい) 任他坐。tekini. (座るがいい) 必使指他人而言也。如上係整字。亦用 o 字接之。如令其好。則曰。sain okini. (よくするがいい) 又欲然口氣。如云。欲然豈得乎。okini seci bahambio.. (したいというならできるか)

[23] bu.

與字也。用於句中。是使之如此也。又被人如此也。上文有 be 字。作使字用。上文有 de 字。作被字用。如令人行某事。yabubumbi. (行わせる) 令人作某事。arabumbi. (作らせる) 令人喜。urgunjebumbi. (喜ばせる)

[24] mbo. <mbu>

用於句中。亦是使之如此之意也。必因上文係 ra. re. ro. ru. 而又以 an. en. in 之音叶之。如拓開則曰。badarambumbi. (広くする) 解慰曰。surumbumbi. (悩みを解く)

(5a4-7b7)

(承前)

[25] so. su. cina. fu. nu.

此五字。用於句末。教人口氣也。令人作某事。則就本語直斷。若令人去。則曰。gene. (行け) 令人言。則曰。□□ <hendu.> (話せ) 其語直截。不□□ <加助> 語。如上文不可竟斷。乃用 su 等字承之。如令人取之。則曰。gaisu. (取れ) 令人求之。則曰。□□ <baisu.> (求めろ) □□ <令人> 住止。則曰。bisu. (居ろ) 皆因上一字。不可單住。故以此等字接之也。如上文係整語。不可連下者。又竟住不成文義者。則用 o <so> 字承之。如令人做官。hafan oso. (役人になれ) 如使之進去。dosinu. (入れ) 其 cina. 亦令人之詞。其詞直。兼有罷字口氣。大約對下等人說。有催促之意也。如勸人吃飯。則曰。□□ <buda> jefu. (飯を食べろ) 如云。吃飯罷。buda jecina. (飯を食べたらいい)

[26] ša. še. ja. je. šo

此五字。用於句中。亦是助語。皆不一而足之詞。如商議曰。hebedembi. (相談する) 互相商議曰。hebedešembi. (互いに相談する) 其餘如 gidašembi. <gidešambi> (侮る) icihiyajambi. <icihiyanjambi> (処理する) sunggelejembi. <sunggeljembi> (揺れる) 之類。字義皆同。換字叶韻耳。

[27] kiya. hiya. kiye. hiye.

此等字。亦句中用之。皆着力之意。如引之。誘之曰。yarhûdambi. (引く) 有意引誘之曰。yarkiyambi. (おびきよせる) 餘如雪恥之雪曰。šaringgiyambi. (はらす) 惱意曰。sidahiyambi. (怒る) 撫慰曰。nacihiyambi. (なぐさめる) 字義皆同。換字叶韻耳。與 la. le. ra. re. ro. 用於句中。其着力同也。

[28] ca. ce. du. nu. cu. ne.

此等字用於句中。皆指衆之詞。如飲曰。ombi. <omimbi> (飲む) 衆飲曰。omicambi. (ともに飲む) 坐曰。tembi. (すわる) 衆坐曰。tecembi. (ともにすわる) 餘字皆同。換字分韻耳。捻是互相之義也。又句末 la 字。雖爲凡字意。亦指衆之詞。

[29] ungg. tuwanggi. bonggi. gonggi.

皆遣去之詞。加 reo 字。即望其遣意也。

[30] manggi.

此亦已然之詞。下亦接別語。與 amaga (後の) 之意近。又如了字意。上必用 ha. he. ho. 等字起之。如云。行了説。則曰。yabuha manggi kisureki.. <gisureki> (行った後で言おう)

[31] ohode.

此就事之已然。而下接別語之意。如云。adaramé ohode bayan wesihun i fulehe. adaramé ohode beyebe elhe obure arka <arga> ombini.. (どうなったら富貴の根本、どうなったら身体を平安にする方法になるのか)

[32] jakade.

此就事之將然。而下接別語。如漢文彼時之意。凡云。某人之前亦用此。又因爲這樣的時侯。而上必因 ra. re. ro. 未然等字起之。如云。因行善之時。所以獲福。sain be yabure jakade tuttu hûhuri baha.. (良いことを行うのでそのように福を得た) 間有 me 字接者。比 ra. re. ro. 字稍緊些。至於我的跟前。mini jakade. (私のところで) 你的跟前。sini jakade. (あなたのところで) 此係整語也。

[33] na. ne. ji.

凡用於句中。有去來之意即此帶用之。如曰。去問。fonjinambi. (問いに行く) 如來問。fonjimbi. (問う) 之類也。用 an. en. in 頭。帶下 na. ne 者。即 gene (行く) 之省文耳。na. ne 字。亦作助語用。如禾莠曰。sunghenambi. <suihenembi> (穂が出る) 之類。

[34] reo.

是卑者向尊者言也。如欲望允行。而不敢用直接之詞。如 yabubureo. (行わせてもらえないか) 是欲其准行也。如云。可得聞乎。donjici ogoro. (聞いてはもらえないか)

[35] mbio. bio. kao. hao. keo. heo. nio.

凡疑詞多是那 ao. eo. io. 頭者。如乎歟之類是也。已然未然。及叶韻。俱照前例。如云。亦將有以利吾國乎。mini gurun be aisi obure bigeo. <biheo> (私の国に利益となるのであったか) 又有疑詞。用 an. en. in 頭者。如問人好麼。則曰。saiyûn. (良いか) 實否。yargiyûn. (本当か) 之類。又 akûn. (ないか) rakûn. (しないか) 之類亦然。又有因本話帶用疑詞者。如 hahao. (男か) heheo. (女か) 之類。nio 字。亦揣度其不然之意也。bio 字。是反詰之詞也。如云。如此可乎。uttu oci ombio. (このようになればよいか) 有此理乎。ere gese doro bio. (このような道理はあ

るか) 其 akûn. 乃豈字也。如云。豈不知。sarakûn. <sarkûn> (知らないか)

[36] rangge. rengge. rongge. kangge. hangge. hûnge. kengge. hengge.

此等字。皆随上文帶出用之。如漢文之所以字。者字。也字。也者字。如曰。所以勸士。即曰。saisa be huwekiyeburengge. (賢者達を鼓舞すること) 來者。jiderengge. (来る者) 之類。亦照已然未然分用。又有整語帶用者。如云。或。ememu. (ある) 或者。ememungge. (あるもの) 之類。又作已成字用。如直指其已成者而言之。即 erdemungge. (才能ある者) 之類是也。又有 gosingga. (仁愛ある者) bodohonggo. (計略ある者) 之類。皆就已成仁。已成智者而言。揜在 eng. ang. ing 頭者。文義皆同耳。

[37] rakû. kakû. hakû. kekû. hekû.

皆不然之詞。即 akû 字意。連寫者省文耳。凡云不。則用 rakû. 不來。jiderakû. (来ない) 如云。原不。原未。未曾。不曾。hakû. hekû. 不曾來。jihekû. (来なかった) 以韻分用耳。

[38] rahû. ayoo.

皆恐字意也。如恐其有失。則云。aikabade ufararahû. (もしや失くしはしまいか) 又云。aikabade ufarara ayoo. (もしや失くすのではないか)

[39] sa.

與 se. si. 同意也。又作知道之知字。作員字。作們字。作者字。作凡字。如將們。jiyangkiyûsa. <jiyanggiyûsa> (將軍たち) 如賢者。merkese. <mergesse> (聖賢たち) 兄弟們。deote. (弟たち) 男人們。hahasi. (男たち)

[40] te.

令字。坐字。住字解也。用於句中。與 de. do. to. 着力相同。又作每人幾箇之每。juwete. (二つずつ) ilanta. <ilata> (三つずつ) tofohoto. (十五ずつ) 又有作今夫二字者。乃云。te bicibe. (今であつても)

(7b8-10b8)

(承前)

[41] da.

用於句中。作不然之詞者多。又必上文係 an. en. in 頭者。如 bandarakû (怠らない) 之類是也。又如怒。jili. (怒り) 盛怒。jilidame. (怒って) 亦有着意之意。

[42] kai.

哉字。又作也字意。又咏嘆之致。贊美之詞也。亦已然之詞。凡決斷其如此之意。如可行也。即云。yabuci ombikai. (行くことができるのだぞ)

[43] ken. kan. hei. hai. hoi. pi. kon.

此等字。皆是漢文中形容不盡之意也。而詞氣和婉。則靄然可親。文情急切。又威而不猛。如云。慢慢的。elheken. (やや遅い) 快快的。hûduka. <hûdukan> (やや速い) 驚醒了。golohoi getehe. (驚いて目覚める) 坐以待旦。tehei gerendere be aliyambikai. (座って朝になるのを待つのだぞ) 形容其滿。jalopi. <jalupi> (満ちて) 形容其少。komsokon. (やや少ない)

[44] aikabade.

倘字。設若字。必下有 hade. hede. oci. ohode. 等字應之。如云。設若如此。則如之何。aikabade uttu ohote <ohode> ainambi. (もしもこのようになったらどうする) 又作恐其二字用。下必有 ayoo. (ではないか) ojarahû seme. (なりはしまいかと) olhoru. (おそれる) rahû. (しはしまいか) 等字應之。

[45] udu seme. udu bicibe. udu cibe.

此三句。作雖然字。如云。你雖然如此說。udu tuttu sehe seme. (たとえそのように言ったとしても) 如云。雖然如此。udu tuttu bicibe. (たとえそのようであっても) 又 cibe 或逕於本話帶下。如 genecibe (言っても) 者。此乃遇整語帶用之法也。如遇整語。文氣未純。不可帶下者。則以 ocibe 承之。凡用 seme 者。在說字上運意也。用 bicibe 者。在有字上運意也。又有上無 udu. 止有 cibe 者。此暗有雖字之意。如漢書中之體貼文情法耳。落筆時。最宜詳慎爲妙。

[46] hono bade.

作尚且字。an <ai> hendure. (どう言う) 作而況字。凡連用此二句。乃上下相呼應之法也。如云。堯舜尚且如此。yoo sûn hono uttu bade. (堯舜でさえこのよう

うなの) 此上下相呼應之法也。亦有不甚拘呼應者。如云。我尚且如此。而況其他乎。bi uttu bade gûwa be ai hendure. (私でさえこのようにのをどう言おうか) 如単用 hono. 作猶字。作尚字。單用 bade. 作地處解。

[47] tere anggala.

此句用於句首。作況且字。如單用 anggala 於句中句末者。作與其二字解。字頭上必用 ra. re. ro. 如云。與其爲惡而致富。不如行善而安。ehe be yabufi bayan ogoro anggala. sain be yabume elhe ogoro de isirakû.. (悪を行って富を得るよりは、善を行って平安を得るに越したことはない) 此句中之 de 字。有而字之神情也。又作不但字。不惟字。不止字。然但字。惟字。原有 damu 字解者。今以 anggala 之字。乃有非然之意也。凡用 anggala 文法。亦有兼用 damu 字者。亦有不用 damu 字者。如云。不惟此之不好。更有不好者。damu erebe sain akû sere anggala. geli ehe ba bi.. (ただこれを良くないというよりは、さらに悪いところがある)

[48] tere dade.

用於句首。即兼且口氣。又更且口氣。

[49] dere.

用於句首句中。作情面之面字。用於句尾。作漢文之想必如此耳。不可如此耳。又作罷了口氣。又作也使得口氣。又作贊美口氣。如云。hiyooşun deocin serengge gûsin <gosin> yabure fulehe dere.. (孝・悌というものには仁を行う根本だぞ)

[50] dabala. gojime.

此二字。用於句中。皆是止於如此口氣。又作而字意。雖字意。用於句末。作不過二字意。如曰。不過如是。uttu dabala. (このようだけだ) 如曰。勇而無謀。baturu gojime bodohon akû.. (勇ましくはあっても計略はない)

[51] nememe.

作反字。愈字。越字。如惡人反得福。ehe niyalma nememe hûhuri bahambi.. (悪い人がかえって福を得る)

[52] tala. tele. tolo.

皆由彼至此之詞。如 isitala. (至るまで) tutala. (それほどまで) 之類。若遇整語。則用 o 字承之。如 otolo (なるまで) 之類是也。

[53] gala. gele.



用於句末。俱未完字眼。如云。未完。wajinggala. (終わらないうちに) 如云。未出。tucinggele. (出ないうちに)

[54] makan. <maka>

作想是之詞。又揣度之詞。如云。想是好麼。makan <maka> saiyûn. (まさか良いのか) 如云。不識有此事否。makan <makan> ere bihe akû be sarakû.. (まさかこれがなかったのを知らないのか)

[55] aika.

專指事物而言。不拘甚麼。無一定之詞也。如云。有甚麼事。aika baita bi. (何か事がある)

[56] aise.

想像也。逆料也。敢是也。又不敢自以爲然之意。用於句尾者多。如云。想是來了。jihe aise. (来たのではないか) 如云。敢是如是。uttu aise. (このようではないか)

[57] mene.

此字與 teni 字相同。乃如此方好之方字。

[58] jaci.

頗覺之意。大甚之意。如云。si jaci holtoro mangga.. (お前は本当はうそをつくのうまい) 動不動口氣。jaci ohode. (ややもすれば)

[59] eitereci.

大抵也。揔之也。如云。總之皆是。eiterecibe inu. (総じて正しい)

[60] tetendere.

作既然是之既字。然必詰問其人乃用耳。凡用此字。上必以 ci 字起之。如云。既然如此。uttu oci tetendere.. (このようであるからには) 如云。我既然在此。bi ubade bici tetendere.. (私がここにいるからには)

[61] ere.

作這裏的這字。tere. 作那裏的那字。又作其字。如云。以至於今。ere tere. (あれこれ) 如云。直到今時。ere tere funde.. (これとあれを代わって) 如云。自古迄今。julgeci ebsi tede isitala. (昔から以後今に至るまで)

[62] ainci.

作蓋有之矣之蓋字。即俗語想是口氣。而下必以 **dere** 字應之。如云。想是如此。ainci uttu dere.. (たぶんこのようだろう)

[63] □□ <eici.>

□□□<作抑字。>又想是如此。又必如是而後可之意。如云。求之與。抑與之與。bairedeo. eici □□ <alaradeo.> (求めるのか、あるいは与えるのか)

[64] □□□□ <cuka. cuke.>

作可□可□可□可痛之可字意也。與 ombi 字稍異。如憂曰。jobocun. (憂い) 可憂。jobocuka. (憂うべき) □□<其餘> gelecuke. (恐れるべき) akacuka. (嘆くべき) 総之叶韻分用耳。

[65] □□ <uttu.>

作這樣字。作如此字。如云。此處。uba. (ここ) 如云。這樣的。uttungge. (このようなもの)

[66] tuttu.

作彼處之彼字。作那樣字。作故字。如云。tuba. (あそこ) 乃彼處也。如云第幾。tuttu ci. (~番目) 又如□□ <tuttu oci.> (そのようならば) 作然則。作若是。作那樣。作若彼。又如 tuttu seme. (そのようにいっても) 作然雖。又如 tuttu bime. (そのようであっても) 作然而字。□□<又如> tuttu ofi. (そのようになって) 作是故。作所以。作因那般。又如 tuttu waka. (そのようでない) 作不然。又如 tuttu akû. (そのようでない) 作不然。

[67] esi.

作是然口氣。又有以 ci 字煞尾用者。如云。bi umai šolo baharakû. šolo bahaci esi jici. (私は全く暇を得られない、暇を得ればもちろん来るとも)

(11a1-14b1)

(翻字翻訳『清書指南・翻清虚字講約』終)